

2020年度活動報告 CJP授業：口頭表現1-2

著者	中岡 樹里
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	10
ページ	50-51
発行年	2021-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10236/00029353

2020 年度活動報告 CJP 授業：口頭表現 1－2

中岡 樹里（京都精華大学共通教育機構）

1. クラス概要

本授業は、レベル 1～2（入門～初級前半レベル）の学生を対象とした、週 1 コマ開講の選択科目である。授業目標は、①身の回りのことについて入門レベルの表現を使って口頭で表現することができる、②一人で話すだけでなく、他の人とのやりとりの中でも話せるようになる、である。

2020 年度春学期の授業は、Zoom を利用してオンラインで行った。受講学生は 2 名であった。

2. 授業内容

【ウォーミングアップ】

授業冒頭の口ならしとしてシャドーイングを取り入れた。オンライン授業のため一斉練習は行わず、学生は音声ファイルを聞きながら各自練習し、記録を記入（Google スプレッドシートを使用）、数回に 1 度提出した録音に教員のフィードバックを受ける、という流れで行った。しかし、今回の受講学生は本授業の想定より高い日本語レベルを有していたため、学期後半は「もっと日本語で話したい」という学生の要望に応え、学生が話したいテーマについて毎回 10 分程度自由に話すミニトークを取り入れた。その際、教員も会話に参加しつつ、適宜語彙や文法についてのフォローを行った。

【会話】

本授業は、日本語未習（レベル 1）の学生が履修した場合、特に学期前半は日本語の言語知識がほとんどない状態で受講する可能性がある。そのため、会話を扱う際には、他者の援助を受けながら会話を作成し、その会話を練習、発表することから始める必要があると考えた。そのため、学期前半はある場面での会話をグループで協力して作成して話す「場面会話」を行った。学期後半では、ある程度日本語学習が進んでいることから、既習の言語知識を活用しながらの「ロールプレイ会話」を行った。

会話の場面とロールプレイの機能については、それぞれ初回は教員から提示し、2 回目以降は適宜教員からも候補を出しながら、クラスで決定した。

【スピーチ】

クラスでテーマ（自分の国紹介）を決め、クラスで準備、練習を行った。スピーチ発表本番では日本人学生に聞き手として参加してもらった。

【中間・期末】

中間には授業で扱った場面会話のテストを、期末には1人1～5分程度のビデオ作成を行った。期末に作成するビデオのトピックは学生に委ねたが、例として「留学生の一日紹介」「ルームツアー」「レビュービデオ」などを挙げた。試験ではなくビデオ作成とした理由としては、うまく話せるまで何度も撮り直すこと自体が練習の機会になることや、録画したものを自ら見ることで自分の発話について振り返る機会となり得ることが挙げられる。

3. 成果と今後の課題

口頭表現という授業の性質上、授業内容を大きく変更することなく、オンライン授業へと切り替えることが可能であった。ただし、学生数が少なかったことや、今回の受講学生がすでに初級前半レベル相当の日本語能力を有しており、Zoom 上での意思疎通が容易であったことが寄与していた可能性はある。

また、口頭でのやり取りが中心の授業のためオンライン授業でも実施しやすい一方で、ネット通信の影響を受けやすく、ネット通信の不具合によって授業が滞ることがあることは注意すべき点である。

スピーチ発表の際に日本人学生に聞き手として参加してもらったことは、学生にとってモチベーションの向上につながったようである。特に、今回のように日本に留学していながら大学で授業が受けられない状況であった学生にとって、良い機会となったと思われる。また、具体的な聞き手を事前に提示することで、スピーチのテーマ設定や話す内容の準備においても、聞き手を意識して行っていたことが伺えた。

次の点はオンライン授業に関するものではないが、最後に本授業の課題として、受講学生のレベル差を挙げたい。本授業の対象レベルはレベル1（入門）とレベル2（初級前半）であるが、学期開始時点での両者の言語知識には大きな隔たりがあり、授業内で行う活動等のレベル設定が難しい。今回の受講学生についてはこの点での問題はなかったが、今後、本授業で扱う内容については試行錯誤を重ねる必要があると思われる。